

五位の池小学校まち発見ウォーキング

みんなで歩いた僕たち私たちのまち



タウンウォッチングをする
子供たち

こうべまちづくりセンターでは、3月6日
土曜日、長田区の五位の池小学校4年生の子
供たちと、タウンウォッチングを行いました。
生徒たちは、バリアフリーに対する意識が高
く、今回のまち歩きも、戸惑うことなく、ほ
とんどの子供たちが積極的にまちあるきに参
加していました。スタッフとして参加した私
たちも、子供たちの知識と意識の高さに、驚
きの連続でした。



みんなで作った校区の地図

五 位の池小学校は、バリアフリーのまちづくりに
関連して、様々な授業を行っている学校ですが、
今回のようなタウンウォッチングを行うのは、初めての
試みでした。神戸市内の小学校でもこのような授業を
行っているのは、他にはないだろうとのことでした。

タ ウンウォッチングに参加したのは、4年生 80
名とその保護者の方で、まず、講堂に集まり、
バリアフリーのまちづくりを研究している環境緑地設
計研究所の辻さんから、タウンウォッチングの方法に
ついて講義を受けました。その後、10班にわかれ担
当地区をタウンウォッチングしました。

子 供たちにはそれぞれ、自分の役割が与えられて
います。例えば、視・聴力障害者グループは、
視・聴力障害者となって、まちを歩き、不便なところ、
工夫されているところなどを見つけていきます。他に
も、高齢者グループ、車イスグループ、気づいたと
ころを写真に撮る係、それを地図に書き、まとめる役割
など、子供たち全員がそれぞれの役割をもって、まち
あるきを行いました。約1時間のタウンウォッチング
後、学校に戻り、ワークショップ形式で、気づいたこ
とをまとめ、一枚の模造紙に整理して書き込んでいき
ました。どの班もそれぞれ個性豊かな立派なものがで

生 徒たちの感想は、「日頃なげなく通ってい
る通学路が、まったく知らない道に思え、つ
ぎからつぎへと、段差や階段が目飛び込んできて、
まるで、テレビゲームをしているみたいにおもしろか
った。」「お年寄りや身体の不自由な人は、とっても苦
労するだろうなと思った。」「今の自分たちのまちは、
安心して住むことのできない危険なまちであることが、
わかり、悲しくなった。」などの感想や意見がよせら
れました。次回はみんなが作った成果を授業でより詳
しく話し合っていくということで、今回のタウンウォ
ッチングは終了しましたが、最後はみんなから「楽し
かった」と大きな声で、返事がありました。

参 加したスタッフからは、「五位の池小学校の校
区は、バリアフリーの観点からみるとあまり整
備されていないということになるが、反面、車があ
まり入ってこず、その面では安全に遊べる場所があるこ
とになり、こういったことにも子供たちが気づき、様々
な側面から自分たちのまちを感じ、よいまちにしてい
こうと考えていってほしい。」という感想を述べて終
了しました。これからも、まちづくりセンターでは、
子どもたちを対象としたまちづくり関連のイベントを
随時行っていきたいと考えています。

9月に開講した第2期こうべ市民安全まちづくり大学も、いよいよ修了式を迎えました。式には、本大学の学長である北村新三 神戸大学都市安全研究センター長と、笹山幸俊 神戸市長のご出席をいただき、修了証書の授与と、市民安全推進員の委嘱を行いました。



学長あいさつ

本日多くの方が本大学を修了されたことをお祝い申し上げます。半年間の講座のなかで、私たち神戸大学都市安全研究センターなどから第一線の研究者が講演してきましたが、このような場でお話することで研究者の側も新たな研究課題を得たことと思います。この大学は来年度以降も開講されるので、ぜひ皆さんもお近くの方に声をかけてください。

市長あいさつ

この半年間熱心に勉強されて、このたび市民安全推進員としてご登録いただく皆さんに、心からお礼申し上げます。特にこれからの安全なまちづくりには、子どもたちに関心を持ってもらうこと、バリアフリーの問題に気を配ることなどが大切です。昨年度修了された皆さんと同様に、地域でリーダーとして活躍されることを期待しています。



今年度は、入門講座を120名が、まちづくり講座を58名が修了し、58名の皆さんが市民安全推進員として登録されました。これで、昨年度と合わせて、108名の市民安全推進員が誕生したことになります。これら推進員の皆さんの地域での活躍を支えるために、また来年度以降も多くの推進員が後に続くように、事務局としても今後いっそう努力してまいります。

修了式に続いて、神戸大学都市安全研究センターの室崎益輝教授から、「安全で安心なコミュニティづくりを進めるために」と題して、修了記念講演をいただきました。

防災の大原則は、自分自身が自分を助けるように努力することです。いざ災害が発生したら力を合わせて対応すること、そして被害を出さないためにコミュニティで前もってルールを決めることが大切です。

地域社会がいわば運命共同体として、コミュニティ、ボランティア、事業所などさまざまな人たちが支えあうことができれば、災害にも犯罪にも強いまちになるでしょう。



アメリカの郊外住宅事情⑧成長管理と都市計画マスタープラン

アメリカの大都市の形状は、都心には超高層のビルがそびえるが、それ以外は低層の住宅地が延々と続くのが特徴的である。そしてその都心からフリーウェイと呼ばれる高速道路が放射状に郊外に延びている。

ロサンゼルス市の都心の平日の朝は、スモッグが立ちこめて太陽がぼんやりかすむのは日常になっている。スモッグの向こうの10車線もある高速道路では身動きできない通勤の自動車の大渋滞が続いている。

アメリカは自動車の国である。自動車の普及が現在の都市構造を作ったのである。1920年代に大量生産に成功し、価格が労働者の手に届くようになった代表的なT型フォードに乗った形で、住宅地が郊外へ郊外へと拡大していった。特に20世紀に入り、世界最大の工業国家になって以来、国民所得は増加を続け、ゆったりした敷地と、緑に囲まれた郊外の住宅が、国民のアメリカンドリーム象徴として、自動車保有と重なる形で、郊外住宅地を拡大し続けたのである。

しかも自由主義の国でありながら、自治体が定める規制型の厳しいゾーニング（用途制）条例により、財産保全の目的が達成され郊外化を助長した。このため、高速道路が整備されると、最低限ゾーニングに適合した開発が進められ、新たな居住者がどんどん移り住んできた。そしてそこから、都心の事務所までマイカーで通勤するのが生活パターンである。それを可能にしているのは、無料の高速道路と、なんとといっても現在でも日本の1/4という安いガソリンの価格である。



ロサンゼルス市の都市圏には約1400万人が住むといわれ、その都市圏の大きさは関東平野に匹敵する。高速道路を飛ばしても2時間という自動車通勤を余儀なくされ、渋滞を避けるために午前5時に家を出るといふ人がいる。こうして朝の時間帯には都心だけではなく

問題を発生させているのである。

これまで郊外の住宅のすばらしい環境について説明してきたが、住宅地が広がれば広がるほど、その陰で都市全体に影響する大きな課題を抱えるようになった。この問題に、1960年代後半から70年代にかけて、郊外の都市が立ち上がった。人口の増加は、渋滞の問題だけではなく、上下水道、学校、道路などの社会資本の整備を要求する。公共負担の問題に直面した郊外都市は、住宅地開発の抑制を目的とする政策を自衛的に開始した。これが「成長管理政策」と呼ばれるもので、開発の量や質に加えその速度を規制する。その内容は、公共施設整備プログラムを長期と短期の計画を作り、それに見合うよう開発の量を制限するか、それを超える場合開発者が負担して公共施設を作るというのが一般的であり、70年代には約300の都市で適用された。

80年代には、情報化を装備した金融などの新しい産業が成長し、都心には新たな建物と、高度サービス産業に従事する人たちが集まり、新たな成長の大きな波が中心部と郊外部に押し寄せてきた。

このために①自然環境の保全②交通負荷の軽減③スプロールの防止④アフォードブル住宅の供給⑤インナーシティ地域の開発等の課題の解決が迫られた。そこで、広域的な地域を対象に、総合的な計画に基づき、整合性を図る、「都市マスタープランに基づく均衡ある都市の成長を図る」新たな「成長管理政策」が州を中心に法律を定めてコントロールする手法が広がった。

これはアメリカの都市計画上これまでとは異なる意味を持つものである。第1は、これまでの土地利用規制は自治体のゾーニングが主であったが、法律で広域的マスタープランが優越し、ゾーニングが総合計画の道具になった。第2は、総合計画の策定に最初から最後まで、できるだけ広範に住民やコミュニティの参加を求めるプロセス重視の都市計画策定手法である。

分権の国アメリカで州の権限が強められ、自由の国に社会主義的手法のマスタープランが優越することは、これまでのイメージと逆転するほどの大転換である。しかしその各プロセスに住民参加を徹底する手法は、これまで絶えず求めてきた、主体は市民であり、権力は分散させるという理念がしっかりと貫徹している。

ファイブライリーニュース

開館時間：午前10時～午後6時

休館日：毎水曜日・年末年始

まちづくり会館図書室

4月8日リニューアルオープン

平成5年11月の会館以来皆様に親しまれてきました図書室ですが、

- ・蔵書の増加に対応するため、書架を増設しレイアウト変えました。
- ・震災以降の図書の整備にあわせて分類変更しました。

より一層の使いやすさを考えて整備しましたので、多くの方のご利用をお待ちしています。

今後も、まちづくりの専門図書館として充実させていく予定ですので、ご利用に併せて資料図書のご紹介などご協力をお願いいたします。

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
4月1日(木)～6日(火)	絵画4人展	鈴木 千咲
4月8日(木)～13日(火)	第3回パレット展	梶 睦子
4月15日(木)～20日(火)	第15回いくた15人展	いくた15人会
4月22日(木)～27日(火)	火彩会作品展	奈良橋 茂之
4月29日(木)～5月4日(火)	第15回西神戸土葉会展	西神戸土葉会

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの予定

4月の展示内容	高田屋嘉兵衛と兵庫の歴史	兵庫区役所まちづくり推進課
---------	--------------	---------------

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
(こうべまちづくり会館 3F)
電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 祝日・土・日曜は
まちづくり相談コーナーで受け付けます
(こうべまちづくり会館 4F)
時間は、午前10時～午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)
会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
受付は、午前10時～午後6時
電話 078-361-4565



〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話 078-361-4523

FAX 078-361-4546